

# 2008年度後期の実施概要

システムデザイン学部航空宇宙システム工学コース・教授  
福地 一

## はじめに

前々号にならない、ここでは2008年度後期に実施された授業評価の概要を紹介する。

首都大学東京では、基礎・教養教育（全学共通教育）を構成する科目に関する授業評価は、FD委員会および教務委員会基礎教育部会が統括している。学生による授業評価（SE）と、担当教員による授業評価（TE）をほぼ対応した項目で実施しており、結果の比較検討ができる点に特徴がある。

授業評価の対象科目は、

- 実践英語科目
- 情報科目
- 都市教養プログラム
- 理工共通基礎科目

の各科目となっている。

## 実施概要

本SE/TEの実施概要は以下の通りである。

- 実施主体：FD委員会、教務委員会、基礎教育部会

- 実施方法：担当教員へ事前送付

- 実施・回収期間：12月17日～1月20日の間に配布・実施・回収（科目により若干相違あり）

都市教養プログラム、実践英語科目、理工共通基礎科目では、後期試験前の2週間で授業中に質問紙を配布・回収したが、学年暦の都合で、月曜日科目については試験3～4週前、火曜日科目については同2～3週前に実施した。情報科目では、Black Boardを利用してon lineで行われた。なお、基礎ゼミナールは前期のみの開講となるため、今回は実施されていない。

## 質問項目

全科目共通の質問項目は8つで、これに科目毎の個別事項が最大で4問加わり、さらに自由記述に関しては共通の3問が設定されている。

共通事項および自由記述の問いは図表1に示した通りであり、TEの質問項目は、SEのそれに対応する形で設けられている。

図表1 共通事項の質問項目及び略称一覧

	質問項目 (SE)	略称
問1	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	態度
問2	授業の目的を意識しながら学習することができた。	意識
問3	教員の説明はわかりやすかった	説明
問4	教員は学生の質問・意見に対して適切に対応していた。	対応
問5	授業時間以外で一週間に平均どのくらい、この授業に関連した学習をしましたか？	時間
問6	成績評価方法について十分な説明があった。	成績
問7	シラバスに目標として掲げられている知識や能力を獲得できた。	成果
問8	私はこの授業を受講して満足した。	満足
自由記述 (SE)		
①	この授業について改めて欲しい点を、可能であれば具体的な提案を含めて記述して下さい。	
②	この授業で特に良かった点、他の授業でも取り入れて欲しい点などを記述して下さい。	
③	その他、授業やカリキュラムなどについて、自由に記述して下さい。	
自由記述 (TE)		
①	この授業を行っていく上で、解決すべき課題があれば具体的にお書き下さい。	
②	この授業で、教育効果を高めるために先生が行われている方法・工夫等がありましたらお書き下さい。	
③	昨年の「学生による授業評価」を受けて、取り組まれた改善事項がありましたら、具体的にお書き下さい。	

## 結果のフィードバック

授業評価の結果は、主として次の3つの方法でフィードバックされている。

- ① 運営委員会での報告：FD委員会および教務委員会基礎教育部会で、結果の概要が配布・報告される。
- ② FDレポートでの寸評掲載：各科目の世話役となっている教員には、結果の概要と匿名処置を施した自由記述の結果が渡され、それを基にした寸評が、「クロスロード」に掲載される（本稿に続く各論評がこれにあたる）。
- ③ FD委員会HPへの概要掲載：FD委員会ホームページ（<http://www.comp.metro-u.ac.jp/FD/>）には、運営委員会での承認に基づき、結果の概要が掲載される。

この措置には、負担減による回収率の向上も期待されていたが、図表2に示すとおり、必ずしも明確な改善傾向は見られない。ただし、on lineでの実施が定着してきた情報科目では、高い回収率が維持されている。

授業評価の結果を検討することは、個別授業での改善の契機となるだけでなく、プログラム全体としての見直しや、学生自身の学習の振り返りにも資するところがあると考えられる。実施方法の改善だけでなく、フィードバックの充実を通して、今後も高い水準で回収率が安定するよう、工夫を凝らしていく必要がある。

## 補論：回収率について

本年度は、昨年度と同様に授業評価に係る学生・教員双方の負担を軽減するため、分析に必要な情報量を損なわない範囲で質問項目の精選を行った（詳しくは、クロスロード第5号の申本論文を参照のこと）。

図表2 回収率の推移 (%)

		2007年度前期	2007年度後期	2008年度前期	2008年度後期
学生	基礎ゼミナール	78.6	—	83.8	—
	都市教養プログラム	50.5	49.5	48.6	42.5
	実践英語科目	92.8	76.4	87.7	69.7
	情報科目	88.3	96.1	85.1	84.1
	理工共通基礎科目	67.0	53.8	71.3	61.2
クラス	基礎ゼミナール	84.6	—	93.7	—
	都市教養プログラム	91.7	88.6	89.0	74.3
	実践英語科目	100.0	91.9	97.7	87.0
	情報科目	100.0	100.0	97.4	100.0
	理工共通基礎科目	95.2	84.2	96.9	86.0
教員	基礎ゼミナール	80.8	—	84.8	—
	都市教養プログラム	71.2	66.0	70.3	48.4
	実践英語科目	95.4	90.5	88.6	87.0
	情報科目	90.7	100.0	89.1	100.0
	理工共通基礎科目	87.9	77.4	82.9	69.4

注：「学生」は回答者数／履修登録者数、「クラス」は授業評価実施授業／開講授業、「教員」は回答教員数／授業担当者数によって、それぞれ回収率を算出。